

社会資本総合整備計画「滋賀県における安全安心な
都市公園づくり【重点】(防災・安全)「その2」」の事後評価

●委員

広域陸上輸送拠点となる面積の根拠を問う。何故、この指標にある面積を整備したのか？

○事務局

びわこ文化公園については、資料に示すように広域陸上輸送拠点としているが、従前、入口では大型車の進入が困難であった。その箇所の整備面積0.3haを計上している。

●委員

何故、この面積がいるのか？

○事務局

もともと公園全体を広域陸上輸送拠点としている。この目標値は、この整備計画内で整備する必要があるものとして設定している。第1種陸上競技場は工事中で使えないが、完成後は広域陸上輸送拠点とする。

●委員

公共事業で考えるべき目標は「防災計画で、何ha必要というのを示し、今回の整備でどれくらいカバーする。」ということが大事となる。

今の説明では、整備する中で、この程度カバーできるといったアウトカムではなく、アウトプットであり、整備の結果報告となる。

○事務局

防災計画で公園に位置づけを行い、既存の施設でいかに確保できるかというところを整備計画に盛り込んでおり、この面積が必要だからこの面積を整備するというものにはなっていない。

●委員

今後、防災公園の整備や既存の公園をこのように整備するのは大事であるが、公共事業の評価を考える上では、防災計画でこの面積が必要と示すべき。

防災計画として、この面積が必要だから整備するといった根拠が必要と考える。公共事業評価として、判断するための指標が必要である。

●委員

防災の整備は必要であるが、平常時の利用を考えたとき、環境的側面、景観的側面を十分留意し、共存できるような整備を務めるべきではないか。

○事務局

今回のびわこ文化公園で一部、木々の伐採などを実施した。しかし、びわこ文化公園は自然豊かな公園であり、共存、有効活用することが必要と考えている。自然を残す、自然を生かして整備するエリア、都市公園として防災機能、災害時に対応するエリアなどゾーン分けして整備を実施していく。

●委員

避難・備蓄機能の整備について、どのような整備をされたのか？

大会、イベントの開催について、防災に関するイベントは実施されているのか？

○事務局

金亀公園の整備において、第1種陸上競技場のメインスタンドの下は、平常時、練習場であるが、物資を備蓄できるエリアを確保している。また、バックスタンド側は直接物資を搬入できるようにしている。

防災系のイベントについては、びわこ文化公園において、年に1回、消防署にも来てもらい「そなえパークの日」を実施している。

●委員

びわこ文化公園に備蓄倉庫はないのか？無いのであれば、今後、そのような整備も検討してほしい。

●委員

現在、金亀公園の整備を実施されているが、ネーミングライツなどを積極的に活用していただきたい。

●委員長

県は、国の予算を取るために計画策定、事後評価を実施している。委員としては、これが「県民にとってどのような意味があるのか。」が気になる。

道路整備では、道路整備アクションプログラムで位置付けており、予算を取るのに計画を立てている。公園整備においても、公園がどの計画に位置付けられているかを見せてもらえるとわかりやすい。

以上